

人を対象とする医学・薬学系研究の倫理審査業務手順書

(目的)

第1条 本手順書は、一般社団法人埼玉県薬剤師会（以下 本会）における学術倫理審査会（以下 審査会）の設置・運営・審査、及び臨床・疫学研究に関する手順を定める。

(適用範囲)

第2条 本手順書は、本会が次の各号について審査を行う際に適用する。

- (1) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号、平成29年2月一部改正）の適用範囲に該当する研究
- (2) その他、審査会が必要と認めた研究

(審査会等の設置)

第3条 本会会長は、人を対象とする医学・薬学系研究を倫理的及び科学的観点から審査するため、審査会及び審査会事務局を設置する。

- 2 本会会長は、審査会の次に示す事項について、倫理審査委員会報告システム（厚生労働省）にて公表する。
 - ・組織及び運営に関する手順書
 - ・審査員名簿
 - ・審査会の開催状況（審査日、開催場所、委員の出席状況、会議の審査時間等を含む）
 - ・審査概要

(審査会等の組織)

第4条 審査会は会長が指名する次の者5名以上をもって組織する。また、審査会には外部審査員を含まなければならない。かつ男女両性で構成されなければならない。

- (1) 医学・医療の専門家等、自然科学の有識者
 - (2) 倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者
 - (3) 一般の立場を代表する者
- 2 審査員長及び副審査員長を、審査員の互選により選任する。
 - 3 副審査委員長は審査員長を補佐し、審査員長に事故あるときは職務を代行する。
 - 4 審査員の任期は2年とする。欠員が生じた場合には審査員を補充するが、任期は前任者の残任期間とする。
 - 5 本会会長は、審査会事務局員を本会職員から選任する。
 - 6 審査員及び審査会事務局員は、職務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。その職を辞した後も同様である。
 - 7 審査員及び審査会事務局員は、審査等に必要な教育・研修を継続的に受けなければならない。

(審査)

第5条 審査会は、以下の最新文書を研究機関の長から入手しなければならない。

- (1) 倫理審査申請書
- (2) 研究計画書
- (3) 説明文書、同意文書、同意撤回文書
- (4) 利益相反自己申告書
- (5) 倫理審査申請チェックリスト
- (6) 研究倫理に関する研修修了証のコピー

(7) その他審査会が必要とした資料

- 2 審査員長は、申請研究が当審査会の適用範囲か否かを判断し、適用範囲ならば審査会を開催する。
- 3 審査会は原則として、3月（申請の締め切り：2月10日）、6月（同：5月10日）、9月（同：8月10日）、12月（同：11月10日）に開催する。
- 4 審査会事務局は、開催通知及び必要な審査資料を2週間前までに審査員へ送付する。
- 5 審査会は、次の観点から申請研究を審査する。
 - (1) 社会的及び学術的な意義を有する研究の実施
 - (2) 研究分野の特性に応じた科学的合理性の確保
 - (3) 研究対象者への負担並びに予測されるリスク及び利益の総合的評価
 - (4) 独立かつ公正な立場に立った倫理審査会による審査
 - (5) 事前の十分な説明及び研究対象者の自由意思による同意
 - (6) 社会的に弱い立場にある者への特別な配慮
 - (7) 個人情報等の保護
 - (8) 研究の質及び透明性の確保
- 6 審査会は審査員の過半数かつ5名以上が出席し、第4条の規定を満たすことを成立要件とする。
- 7 審査会は、審査対象の研究に関わる研究者等及び研究機関の長を審議及び採決の場に同席させてはならない。

ただし、研究の説明及び質疑応答等のため研究者等を会議に出席させることはできる。また、審査の対象、内容等に応じて有識者に意見を求めることができる。
- 8 審査会の判定は次の各号とし、判定は原則として全会一致をもって決定する。ただし、審査員長が認めたときには、出席する審査員の3分の2をもって採決する。この場合、審査会事務局は少数意見を審査録に記録する。
 - (1) 承認
 - (2) 修正した上で承認
 - (3) 不承認
 - (4) 保留（継続審査）
 - (5) 停止（研究の継続には更なる説明が必要）
 - (6) 中止（研究の継続は適当でない）
 - (7) 当審査会の対象外
- 9 審査会事務局は倫理審査報告書（様式5）を作成し、審査員長の裁決を得る。審査員長は審査会事務局を通して倫理審査報告書を研究機関の長へ提出する。
 - (1) 判定が「修正した上で承認」の場合、修正の確認は審査会事務局と審査会あるいは審査員長が行い、審査員会あるいは審査員長が採決する。
 - (2) 判定が「保留」の場合、資料不足等を整えたのち、次の審査会で再審査する。
- 10 審査会は、他の研究機関が実施する研究について審査を行った後、継続して当該研究機関の長から当該研究に関する審査を依頼された場合、審査を行い意見を述べなければならない。

（記録の保存）

- 第6条 本会会長は、審査会が審査を行った研究に関する資料について、当該研究の終了について報告される日までの期間、審査会事務局の鍵のかかる保管庫に保管しなければならない。侵襲（軽微な侵襲を除く）を伴う研究で介入を行う研究の審査資料においては、終了報告日から5年間適切に保管しなければならない。

(迅速審査)

第7条 次のいずれかに該当する審査について、審査員長が指名する審査員による迅速審査を行うことができる。

なお、審査員長は迅速審査の結果について、次回の審査会で報告する。

- (1) 他の研究機関と共同して実施される研究であって、既に当該研究の全体について共同研究機関において倫理審査を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合の審査
- (2) 研究計画書の軽微な変更に関する審査
- (3) 侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審査
- (4) 軽微な侵襲を伴う研究であって介入を行わないものに関する審査
- (5) 公衆衛生上における危害の発生と拡大防止のための緊急の研究

(改廃)

第8条 本手順書の改廃は審査会の審議を経て、本会会長の決裁によるものとする。

附則

本手順書は、令和3年6月28日から施行する